

～株式投資で勝つ方法～ - エライ人の金言編 -  
その2 ピーター・リンチに学ぶ(全5回)

2005/06/10 太田寿一

第3回 『すべては「単純に！」でうまくいく』

ピーターによれば、完璧な株(会社)とは完璧に単純な事業をやっていて、「どんな馬鹿でも経営できる」企業だといいます。競争のない産業で、面白みのない会社こそが投資家にリターンをもたらすのです。それでは、ピーターが挙げる完璧な会社の特性について見ていきましょう。

**1、面白みのない、または馬鹿げている社名**

→退屈な名前や奇妙な名前、ただ古臭い名前というだけで敬遠したり、気がつかない人がいます。そのような会社を選別から省いてはいけません。

**2、変わり映えのしない業容**

→地味な事業を営んでいる会社は全く目立ちません。しかしその企業が高収益で財務内容が良好であれば、割安なうちに買える機会は十分あります。

**3、感心しない業種**

→アナリストが推奨しないような、一見つまらないが堅実な会社こそ投資に値する企業です。そのような会社こそ成長する(人目に触れて株価が急騰する)余地があるのです。

**4、分離独立した会社**

→大企業は独立させた部門が失敗することで評判が傷つくのを恐れています。大抵独立する会社は良好な財務内容を持ち、独立するのに十分な備えを持っています。

**5、機関投資家が保有せず、アナリストがフォローしない会社**

→機関投資家が知らないということは、これから彼らによって評価されるという可能性を残しています。こういう株も成長する余地を残しています。

**6、悪い噂の出ている会社**

→一時的なものであり、長期的に見れば株価に全く影響を与えません。逆に株価が下がり、多く買えるチャンスです。

**7、気の滅入る会社**

→葬儀屋など、いかにも敬遠したがるような株は狙い目です。

**8、無成長産業であること**

→急成長分野よりも、低成長分野からの方が大化けする株が出てきます。確実な需要のある安定したビジネスに投資して、それが評価されるのを待ちましょう。

### 9、ニッチ産業であること

→独占的な商売を行なっていれば、価格決定権を持つことが出来ます。たとえそれがどんなに小さな市場だとしてもです。そのような企業は安定して収益をあげることができます。

### 10、買い続けねばならない商品

→玩具会社のような一度っきりの商品を売る企業よりも、カミソリや医薬品などの継続利用が見込まれる企業は安定していて、優れた投資対象です。

### 11、テクノロジーを使う側であること

→日進月歩で技術が進むテクノロジー業界では、価格競争が常につきまといまいます。それよりも、テクノロジーを駆使してコストを削減できた企業を選びましょう。

### 12、インサイダーたちが買う株

→その会社の人間が自社株を買っているのは、その会社がうまくいっている何よりの証拠です。特に経営陣が自社株を持っていることは、『株主還元』がより期待できるでしょう。

### 13、自社株買い戻し

→自社株買い戻しがもたらすメリットは、既に周知の通り。

#### ピーター・リンチの金言コーナー

- ・クレヨンで説明できないアイデアには、決して投資をするな。
- ・もし他の条件が同じなら、年次報告書にカラー写真の数が少ない会社に投資せよ。

参考文献 『ピーター・リンチの株式投資の法則』(1994)

ピーター・リンチ(著) 酒巻英雄(監訳) ダイヤモンド社

『ピーター・リンチの株で勝つ—アマの知恵でプロを出し抜け』(2001)

P・リンチ&J・ロスチャイルド(著) 三原淳雄・土屋安衛(訳) ダイヤモンド社

『マネーマスターズ列伝~大投資家たちはこうして生まれた』(2000)

ジョン・トレイン(著) 坐古義之・臼杵元春(訳) 日本経済新聞社